

平成 24 年度 第 2 回環境審議会 議事要旨

- ・開催日時：平成 25 年 1 月 31 日（木）午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
- ・開催場所：長野市役所 第二委員会室（第一庁舎 8 階）
- ・出席者：審議会委員 14 名のうち次の 9 名が出席し、及び特別委員として 3 名が本会への報告等のため出席した。

学識経験者	青木 恵里子	長野県弁護士会弁護士
	田所 道子	元小学校長
	中村 正行	信州大学工学部教授
	福田 典子	信州大学教育学部准教授
団体代表	春日 英廣	社団法人長野県経営者協会長野支部理事
	金井 三平	ながの環境パートナーシップ会議代表理事
	北沢 百代	長野市地域女性ネットワーク会員
	近藤 利之	長野市農業青年協議会会長
公募委員等	伊藤 卓	公募委員
特別委員	伊東 一典	長野市環境審議会地球温暖化対策専門部会長
	亀山 章	長野市環境審議会自然環境調査専門部会長
	和田 清	長野市環境審議会自然環境調査専門部副会長

【議事概要】

1 長野市地球温暖化対策地域推進計画の評価結果等について

(1) 伊東地球温暖化対策専門部会長から次の項目について報告があった。

- ・長野市地球温暖化対策地域推進計画の評価結果（平成 23 年度）について

(2) 事務局（環境政策課地球温暖化対策室）から次の項目について報告があった。

- ・長野市地球温暖化対策地域推進計画の見直しスケジュール（案）について

（質疑等）

春日委員：平成 23 年度及び 24 年度の長野市の太陽光発電システム設置の傾向は、どうか

寺澤次長：太陽光発電システムを設置した方に補助金を交付しているが、その申請件数と出力合計は次のとおり

23 年度 1,204 件 5,492.41 kW（確定値）

24 年度 1,551 件 7,302.76 kW（速報値）

（24 年度については、予算額に達したため、1 月 10 日で受付を終了した。）

春日委員：この制度は、継続するのか。

寺澤次長：継続するつもりで予算要求をしている。

春日委員：2020 年度の目標数値（GHG 削減期待量）は、上方修正となるのではないか。

小林部長：(上方修正は、) 可能であると思われる。

固定価格買取制度で太陽光は、今は 42 円/kWh だが、次年度は 39 円/kWh 程度になるという情報がある。

東日本大震災による再生可能エネルギーの関心の高まりのほか、この制度の効果が大きいと思われるので、価格が下がったときの影響が危惧される。

金井委員：(長野市温暖化対策地域推進計画の) 今後の方針について、来年 3 月以降に見直すようだが、それまではどうするのか。

国の方針(25%削減の見直し)が決まらない間は手が打てないのではなく、今までやってきたことを推進する中で国の方針を盛り込むようにしたほうがいいのか。

方針をより進める具体策を行動計画として積み上げていくのはどうか。

伊東部会長：部会の中で検討したが方針の見直しは、やれるところからやりましょうというところでやっている。1 年間何もしないわけではなく、変えられるところは、変えていくつもりである。

中村会長：データが出しにくく、評価しにくいものがあるようだが、国のマニュアル改定で善処されるのではないのか。

寺澤次長：評価が難しい項目もあるので、いかに進捗管理ができるかという点から見直しを図っていきたい。

福田委員：資料 1-1 の 2005 年度の数値と資料 1-2 参考の部門別排出量表の 2008 年、2009 年の数値は、比較して見てよいのか。

寺澤次長：資料 1-1 の 2005 年度の数値と資料 1-2 参考の 2005 年の数値は同じなので、2008 年、2009 年の数値と比較していただいてよい。

福田委員：ほとんどの部門で減少しているのは、素晴らしい。
この部門の分けは、国や県と同じなのか。

小林主査：県と同じ形になっている。

また、先ほどの補足となるが全体的温室効果ガスの排出量が減っているという話があったが、2008 年に極端に減ったのは、要因分析をすると温暖化対策をしたから減ったというわけではなく、リーマンショックが原因であるという国の評価となっている。

景気の変動に大きく左右されてしまうので、温室効果ガスの総排出量は過去何年かの推移、増減を見る目安としている。

2 「大切にしたい長野市の自然」の改訂について

- (1) 平成 19 年 9 月 10 日に市長から諮問を受け、長野市環境審議会自然環境調査専門部会に調査審議を依頼した「大切にしたい長野市の自然」調査審議結果について、亀山部会長から報告があった。
- (2) 審議の結果、当該部会報告を当審議会の答申とすることで合意した。

(質疑等)

春日委員：自然のバランスを崩す動物と植物についての記載があるがアレチウリの定期的

な駆除は、しているのか。

寺澤次長：河川敷は、一昨年、市の事業として駆除を行った。

また、各地区でもそれぞれやっただいている。

ただ、定期的に長野中の対応ができていないのが現状である。

春日委員：行政だけでの実施は困難だと思うので、ボランティアの活用も検討していただきたい。

中村会長：今回の改訂は、写真も新しいものにしたのか。

亀山部会長：委員の方などが熱心に調査をしてくださり、その際に撮影した写真があるので、鮮度の良い新しい写真も掲載している。

中村会長：レッドデータブックとは違うという位置付けは、最初に発行されたものも同じなのか。

亀山部会長：そのとおりである。

レッドデータブックは、国とか県とかが広い地域でまとめてもらえばいい。

この冊子では、市民が目にしていないもの（市民の身近にあるもの）を掲載することが大事だと考えている。

開発行為の環境アセスメントを実施するときの資料としても使える。

この冊子に載っているものは、大事にしなくてはならないという抑止力になる。

金井委員：市民にどのように公開、提供していくのか。

寺澤次長：配付先は、市内小・中学校、公民館、支所、住民自治協議会、図書館、博物館、国の機関、県の機関などを予定しており、地域で活用していただきたいと考えている。

環境政策課で保有するものについては、貸出しも行う。

金井委員：販売はしないのか。

寺澤次長：本編は閲覧、貸出しのみとなる。

フィールド版については、希望に応じて対応するべきか検討している。

中村会長：I S B N（国際標準図書番号）は、とらないのか。

寺澤次長：今のところ予定していない。今後検討する。

亀山部会長：前回も取得していないが、取得したほうが良いのではないかと。

福田委員：第6章（人々の生活と生き物）は、非常にユニークである。

レッドデータブックとは違うのがこのようなところからも分かり、環境教育にも役立ちそうな分野である。

今後改訂することがあれば、動物以外の伝説を増やしていただくことと、自然と人間生活、自然のおそろしさと大切さ、自然と人間の良い関係が子どもにもうまく伝わるような内容を盛り込んでいただきたい。

亀山部会長：災害に関して、第1章（地形・地質）をお読みいただくとわかるように、長野市は火山が多数あり、噴火も頻繁にあった。

ダイナミックな地形の変動、善光寺地震の爪跡など大事なことが今回のものにも掲載されているので、参考にして欲しい。

福田委員：「大切にしたい長野市の自然」は、大切な資料だと思うので、博物館でパネルの

ようなもので展示していただくことを検討していただきたい。

寺澤次長：今後検討する。

3 その他

- (1) 今期で長野市環境審議会委員を退任する委員から退任に当たっての挨拶があった。
- (2) 「大切にしたい長野市の自然」の改訂について審議会終了後、同日午後4時15分から答申書手交式を開催し、中村会長から市長に答申書を手交した。